学校だより９月号　　令和４年８月３１日

南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう　つながろう　切り拓こう」
学校所在地　〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1　（TEL823-4120,4130）
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/

四季を感じる心

学校長　地主　佐和子

８月７日が立秋、８月２２日が処暑。暦の上では秋、暑さが治まる頃です。二十四節気の節目の意味と自分の感じ方には差があるようになってしまった、と毎年この時期思うようになりました。合わせて思い浮かぶ俳句があります。

暑き日を海にいれたり最上川

あつい夕日が最上川によって海に流し込まれ、沈もうとしている。気温の高かった一日も終わりを迎え、涼を得られることだろう。というような意味でしょうか。

私が担任をしていた頃、この句は６年生の光村図書の国語の教科書に載っていました。当時この句に違和感を覚えた記憶はありません。「暑さをいれる」ではなく「暑き日をいれる」という表現や、見たことがない最上川が壮大なのだろうという気持ちをもとに、授業をしたことを覚えています。しかし、今は違います。夕方になったら涼を得られるのが夏、とは思えない日が多くあります。この句から、昔（といってもこの句のできた江戸時代まではさかのぼれませんが）は夕方になれば涼しいと感じる日が多かったことを思い出しますが、昨今の夏の暑さでは、この松尾芭蕉の句に共感できない子どもがいても不思議ではありません。そう考えると、今の教科書に載らない理由の１つかしら、などと思いを巡らせます。では、今、同じ６年生の国語の教科書に載っている俳句はといいますと、次の２つです。

短夜やあすの教科書揃へ寝る　　日野　草城

くず餅のきな粉しめりし大暑かな　　鈴木　真砂女

さて、夏休みに入る前日の７月２０日、朝会で全校児童に夏をテーマに話をしました。夏を感じる夏休み、夏だからこその過ごし方を大事にしてほしいというメッセージを込めて、夏の季語のクイズを出しました。こいのぼりは夏の季語ですが、すいかや桃、アサガオは秋の季語であることに驚く様子がありました。学校に戻ってきた子どもたちからは、夏休みの様々な経験や思い出も成長につながっていることを感じます。その１つが夏休みに取り組んだ自由研究です。保護者の皆様にもこの自由研究を見ていただけたらと、９月に自由研究参観日を設けました。限られた時間ではありますが、お時間のある方は、子どもたちの夏を感じにぜひ足をお運びください。